

33 アートの会 9 月度 座学 報告

日時；9 月 17 日 水曜日 13:15 から 16:30

場所；202 室

参加者；小林猛、天王寺谷、岡田、山川夫妻、庄司、田中、梶本、稲垣、清水、高濱、光長、辻井、山崎、吉田、安居院（記） 計 16 名

ゴッホ特集 安藤忠雄対談集

今年はゴッホイヤーと言われています。8 月には「ゴッホ展」に行きました。ゴッホの作品が世に出るために家族が努力されたことが知れて勉強になりました。

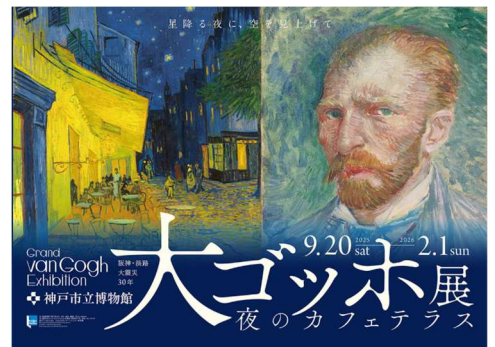
やはり、真価を知って努力してくれた人の存在は欠かせません。近親者であったことが嬉しい。

12 月 17 日には、神戸市立美術館に「大ゴッホ展」を見に行きます。ご一緒に「夜のカフェテラス」を見に来ましょう。

そこで、ゴッホについてもっと知ろうと考えました。

関連する番組を紹介します。

そして、我らが大阪の建築家安藤忠雄の対談をいくつか聞いてみましょう。



1. 印象派とゴッホ～画家を支えた画商と家族～

13:15-13:45

印象派は、パリの街の風景や避暑地の自然、その生活や風俗を描きました。それまでの神話や宗教、歴史をテーマにした絵画とは一線を画し当時としては革命とも言えるものでした。



公園の水上レストランを描いたモネ、野外の舞踏場はルノワール。画商リュエルは彼らの不遇の時代を支え、アメリカ市場の開拓に成功し、印象派の名声を確かなものにしました。

生前、絵が売れなかったゴッホは弟が支援、死後は弟の妻が作品を世に出します。

感想；

美術史をしっかり後追いできた。印象派からの繋がりや、有名な画家のことをコンパクトに知ることができた。

やはり、テオの奥さんヨー（ヨハンナ）の活躍が凄い。書簡集をまとめ、序文まで書いたという才女であった。フィンセント自身は、独り身で寂しい人生であったが、家族に恵まれ後世に作品が世に出たのである。なんと有難いことであるか。

多作のゴッホであったが、アムステルダムで 400 点もの大展示会を開いたのはすごいことだ。時代もそれを求めるようになってきたのであろうが、企画力が凄い。

2. ゴッホ 新たなる“発見”の旅 13:45-15:15

日本人が最も好きな画家と言っても過言ではないゴッホ。近年、新たな「真作」や「贋（がん）作」が相次いで“発見”されニュースにもなった。

“発見”は、なぜどのように行われるのか？

世界最高峰のゴッホの殿堂と称される「ファン・ゴッホ美術館」（オランダ アムステルダム）や、新たに自画像の真作が見つかった「オスロ美術館」（ノルウェー オスロ）の調査研究部門を、特別な許可を得て取材。

知られざる真贋鑑定の世界に迫る。

感想；

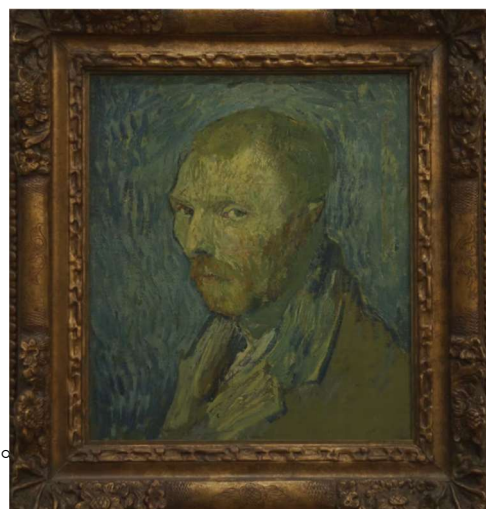
① このオスロ美術館の自画像（右の写真）を、実際に現地で岡田さんが見てこられた由。さすが世界を旅されているだけあってやることが早い。スマホの写真で確認させてもらった。このように、さんさん会のメンバーの行動力もすごいものがある。

ただ単にビデオを見るだけではなく、実物・現地を知っている人たちの話が聞けるのが素晴らしい。

② 日本で発見された水彩画（右の写真）についても、丸沼芸術の森の須崎勝重さんが持っているとのこと。須崎さんも一部の人たちは芦屋で講演を聞いたことがある。

③番組にも出ていた西洋美術史学者の圀府寺司さんは、大学時代に初めて訪れた大原美術館で《アルピーユの道》（オットー・ヴァッカーの贋作）に感動しますが、その一か月後に海外の資料で贋作と知りました。日本で《アルピーユの道》が贋作らしいとニュースになったのはその更に後で、圀府寺さんは「感動のやり場に困った」そう。この体験が圀府寺さんと美術との関わりにおいて、大きな意味を持つようになったんだとか。

いろんなことがつながっていきます。



3. 休憩

15:15-15:30

12月17日 「大ゴッホ展」鑑賞会について、

9月19日まで、前売ペア券（一般のみ）4,400円 通常の前売り券2,300円よりお得。

10:00 現地集合

11:30 鑑賞後集合

11:45 から 13:15 昼食 東遊園地内の昼食会場「ヴィラ・ブランシェ」

いつものランチ 3,300円

4. 安藤忠雄 青春トーク

15:30-16:00

安藤さんが、各界の第一線で活躍される方々と対談するテレビ番組「安藤忠雄 青春トーク 2025（毎日放送）」が1月12日から始まった。ナレーターは建築に造詣が深く、安藤さんと長年の親交があるという櫻井翔さんが務める。今回は、
山中伸弥 2回 @中の島こども本の森中の島
原田マハ 1回 @下鴨休影荘（京都大学）
を紹介します。



感想；

山中伸弥との対談では、共通の友人平尾誠二のエピソードが面白かった。震災で神戸製鋼の宿泊所の近所の民家から助け出した人があった。平尾が死んでから新聞にその助けられた娘さんからお礼の文章が載っていたというのである。生きておられるときに「ありがとう」と言っておけなかったことを悔やんでおられるという話。

そんなものですね、人生は悔いる事ばかりです。お世話になった方にお礼はできていないし、ご迷惑をかけた人たちには、謝りに行けていないものです。心で思っているけど行動に移せないのが私たちなのです。

なるべく、何事も愚痴を言いたくなるのを避けて、感謝で過ごしたいものです。

お天気にさえ、文句を言ってばかりの毎日です。

今、生きていることを、当たり前だと思っていないですか？ 当たり前ではないのです。

今、生きていることの不思議をもっと実感できると、生かされている（命のある事、食事ができる事、等）喜びが実感でき、感謝の毎日が過ごせます。



下鴨休影荘 ラウンジ



下鴨休影荘 ロビー・読書室の吹き抜け空間

原田マハとの対話では、文化の大切さを伝えていきたいとのこと。

食べて、寝てだけの人生では、つまらない。やはり心を震わせるもの、つまり文化、芸術、アートを残していくことが大切だと。

感動のある建物を作る安藤忠雄。美術作品をテーマに感動の物語を紡ぐ原田マハ。どちらも素晴らしいが、それに共感できている我々も捨てたものではない。

人生の周辺にキラキラしたものを覚えることが、経験を積んだ者たちの楽しみかもしれない。

そして、知れば知るほど感動が深くなっていくのだろう。

これからも皆様と一緒に、感動の人生を送っていきましょう。

以上